

第113期
中間
報告書

株主のみなさまへ

2015 / 12 / Vol.50



DOWA

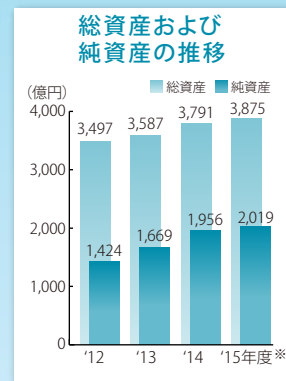
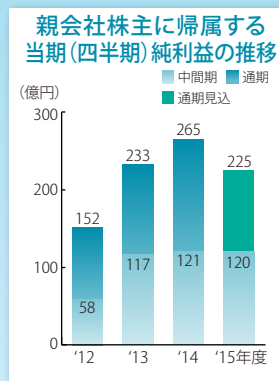
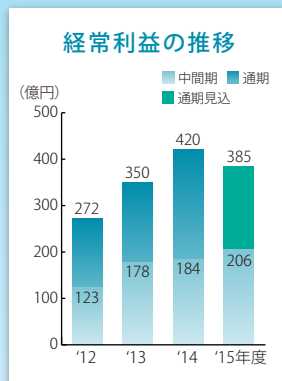
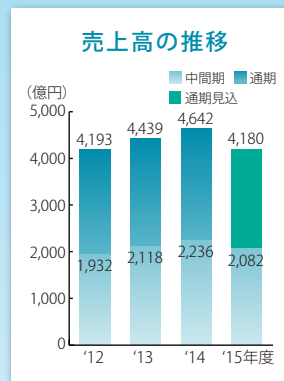
証券コード:5714

連結決算ハイライト

	2013年3月期 (2012年度)	2014年3月期 (2013年度)	2015年3月期 (2014年度)	2016年3月期見込 (2015年度)	2016年3月期中間期 (2015年度中間期)
売上高 (億円)	4,193	4,439	4,642	4,180	2,082
営業利益 (億円)	245	317	390	385	202
経常利益 (億円)	272	350	420	385	206
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益 (億円)	152	233	265	225	120
総資産 (億円)	3,497	3,587	3,791	—	3,875
純資産 (億円)	1,424	1,669	1,956	—	2,019
1株当たり当期純利益 (円)	51.4	78.7	89.6	76.0	—
1株当たり配当金 (円)	12	15	18	18	—
1株当たり純資産 (円)	451.4	534.7	632.3	—	652.6
総資産利益率(ROA) (%)	8.1	9.9	11.4	10.0	—
自己資本利益率(ROE) (%)	12.3	16.0	15.4	11.8	—
設備投資額 (億円)	184	165	172	270	109
減価償却費 (億円)	169	162	155	161	72
有利子負債 (億円)	1,071	996	866	—	1,045

※ROAは経常利益を期中平均総資産で割って計算しております。

※ROEは親会社株主に帰属する当期純利益を期中平均自己資本で割って計算しております。



※'15年度については中間期実績



2015年度(2016年3月期) 中間期の連結経営成績と 今後の取り組み

代表取締役社長
山田 政雄

2015年度中間期の連結経営成績

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2015年度中間期における当社の事業の状況と連結経営成績をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間のわが国の経済は、企業業績の改善など緩やかな回復基調にありました。世界経済は米国をはじめ全体としては緩やかな成長が継続しましたが、中国では景気減速が進み、先行きには不透明感も出てきています。

当社グループの事業環境については、自動車関連製品は一部で国内自動車生産が減少した影響を受けたものの概ね堅調に推移しました。また、スマートフォンや新エネルギー向けの需要は堅調に推移しました。相場環境については、金属価格は、需要の減退懸念やドル高を背景に総じて下落傾向が続きました。為替相場は、概ね1ドル120円台で推移しました。

当社グループは、このような状況のなか、2015年度から始まった新たな中期計画の基本方針に沿っ

て、海外事業のさらなる拡大、成長市場・周辺分野への展開による事業拡大、事業競争力の継続的強化に向けた施策を実行してきました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比153億円減の2,082億円となり、営業利益は同34億円増の202億円、経常利益は同21億円増の206億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同1億円減の120億円となりました。

(単位:億円)

	2014年度 上期実績	2015年度上期		増減	
		計画	実績	前年同期比	計画比
売上高	2,236	2,140	2,082	△153	△57
営業利益	168	185	202	+34	+17
経常利益	184	185	206	+21	+21
親会社株主に帰属 する四半期純利益	121	115	120	△1	+5

今後の取り組みと重点施策

2015年度は新たな中期計画のスタートの年であり、市場動向を見極めながら、次に挙げる施策を着実に実行していきます。

● 海外事業のさらなる拡大

環境・リサイクル部門では、インドネシアやタイなど既存拠点での廃棄物処理を拡充し、ミャンマーの最終処分場の立ち上げに取り組みます。製錬部門では、米国や欧州の拠点を活用し白金族リサイクル原料の集荷を強化します。金属加工部門では、台湾の伸銅品プレス加工工場の立ち上げやタイでの貴金属めっきラインの増設を進めます。熱処理部門では、メキシコ拠点を活用した熱処理炉の中南米向けメンテナンス事業を拡大し、インドなどの海外成長地域では新たな熱処理加工工場の建設に取り組みます。

● 成長市場・周辺分野への展開による事業拡大

ハイブリッドカーなどの次世代自動車分野では、コネクタ向け高特性銅合金の開発や高圧端子向け高硬度めっきの増産に取り組みます。情報通信機器分野では、次世代ディスプレイ向け導電材料の開発を進め、部品の薄型化・小型化などに対

応したリードフレーム・コネクタ向け銅合金の拡販に取り組みます。パワー半導体分野では、窒化物半導体や半導体接合材料の拡販を図り、インバーター向けに放熱性や信頼性をさらに高めた金属セラミック回路基板の拡販を進めます。また、燃料電池向け電極材料など、今後の市場の立ち上がりが見込まれる分野での新規製品の開発・量産に取り組みます。

● 事業競争力の継続的強化

環境・リサイクル部門では、エコシステム秋田(株)において低濃度PCB廃棄物の専用焼却炉の立ち上げに取り組みます。製錬部門では、アンチモンやスズなど副産金属の回収能力を高めるとともに、電力原単位の削減や生産性向上による亜鉛製錬の競争力を強化します。電子材料部門では、センサー向けLEDの拡販や電極材料向け導電材料のラインナップ拡充を進めます。金属加工部門では、銅合金や金属セラミック回路基板の生産性向上に取り組みます。熱処理部門では、熱処理炉製造の生産性向上や市場動向に対応した国内の熱処理加工ラインの統合を進めます。

<各事業部門の重点施策>

環境・リサイクル部門	・ミャンマーの最終処分場立ち上げなど東南アジアでの廃棄物処理の拡大
	・エコシステム秋田(株)の焼却炉立ち上げなど低濃度PCB廃棄物の増処理
	・新たな浄化法による、大型インフラ建設などから発生する建設残土の処理推進
製錬部門	・欧州拠点での人員増強など海外からの白金族リサイクル原料の集荷強化
	・小坂製錬(株)の不純物対応力強化によるアンチモンやスズなどの回収能力向上
	・米国やメキシコにおける鉱山プロジェクトの推進
電子材料部門	・医療センサー用途など的高出力LEDの拡販、殺菌向け深紫外LEDの特性向上
	・新エネルギー向け導電材料の拡販、タッチパネル向けなど導電材料の新規用途開拓
	・半導体接合材料や燃料電池向け電極材料など新規製品の開発・量産
金属加工部門	・ハイブリッドカーやスマートフォン向け高特性銅合金の開発・拡販
	・台湾の伸銅品プレス加工工場の立ち上げ、タイでの貴金属めっきラインの増設
	・放熱性や信頼性を高めた金属セラミック回路基板の拡販
熱処理部門	・インドやメキシコなど海外成長地域での熱処理加工の新工場建設
	・国内拠点の統合による熱処理炉製造の生産性向上、メンテナンス事業の強化
	・コスト競争力のある小型熱処理設備や新規表面処理の導入

2015年度(2016年3月期)の見通し

日本経済は緩やかに回復しており、米国経済も底堅い回復が続いているものの、中国や東南アジアでの景気減速などもあり、世界経済は予断を許さない状況が続くと予想しています。

このような状況のなか、海外事業のさらなる拡大や成長市場・周辺分野への展開による事業拡大、事業競争力の継続的強化に向けた施策を着実に実行することで、

新たな中期計画の達成を目指します。

2015年度の業績予想については、売上高は前期比462億円減の4,180億円、経常利益は同35億円減の385億円を計画しています。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2015年度計画

(単位:億円)

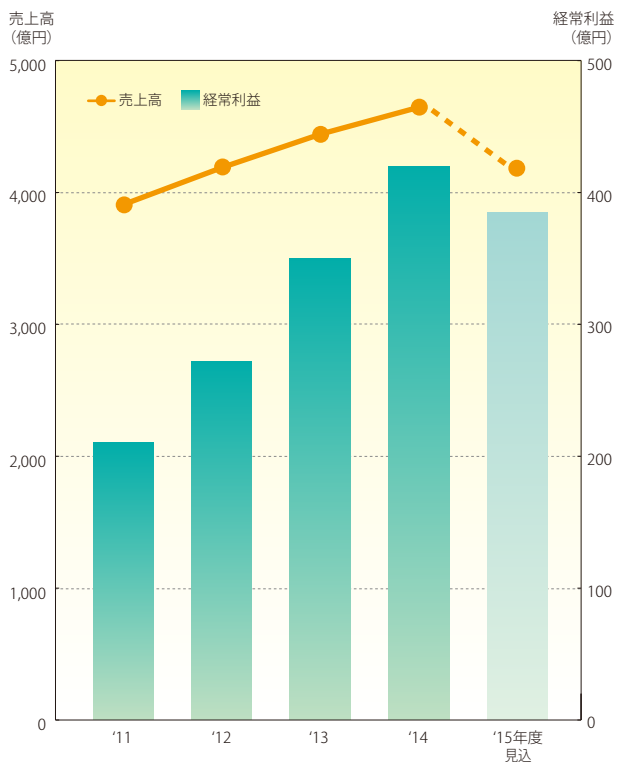
	2014年度実績	2015年度計画	増減
売上高	4,642	4,180	△462
営業利益	390	385	△5
経常利益	420	385	△35
親会社株主に帰属する当期純利益	265	225	△40

※2015年度の売上高は、銀粉の販売が受託加工費での取引へ一部変更された影響などにより減少しています。

相場前提

	2014年度		2015年度	
	上期実績	通期実績	上期実績	下期前提
為替 (円/\$)	103.0	109.9	121.8	120.0
銅 (\$/t)	6,890	6,554	5,653	5,000
亜鉛 (\$/t)	2,192	2,175	2,019	1,800
インジウム (\$/kg)	692	650	369	300

これまでの業績推移と2015年度の見通し



国内の環境・リサイクル事業の強化

● 低濃度PCB廃棄物の処理拡大

PCB廃棄物は2027年3月までに全量無害化処理することが法律で義務付けられています。

DOWAは2011年に光和精鉱(株)において低濃度PCB廃棄物の受託処理を開始しました。その後も全国に拠点を拡げ、特にエコシステム山陽(株)では、国内初となる連続稼働式の専用焼却炉を稼働させ、トランスなどの電気機器の処理を国内最大規模で進めてきました。

2015年8月には、エコシステム秋田(株)においても、様々な大きさや形の電気機器に対応できる専用の焼却炉を新設するなど、その処理拡大に取り組んでいます。

今後も、DOWAは低濃度PCB廃棄物の処理に積極的に貢献していきます。

今後の取り組み

エコシステム山陽(株)

- ・焼却炉の生産性向上による増処理
- ・新たに絶縁油の処理も開始

エコシステム秋田(株)

- ・焼却炉の立ち上げ、電気機器の処理開始

エコシステム小坂(株)

- ・本格的に塗料の処理を開始

DOWAの強み

- ・連続稼働式の焼却炉による電気機器の大量処理
- ・電気機器や絶縁油、塗料など幅広く処理可能
- ・国内4拠点の処理施設により全国をカバー
- ・搬出から運搬、解体、処理までトータルサービスを提供

低濃度PCB廃棄物とは？

有害なPCB(ポリ塩化ビフェニル)を含む廃棄物であって、PCB濃度が5,000mg/kg以下のもの。絶縁油やそれを含むトランスなどの電気機器、塗料などの種類があります。特に電気機器は、対象台数が多く形や大きさも様々です。



電気機器

エコシステム秋田(株)に新設した焼却炉



DOWAの低濃度PCB廃棄物処理施設

光和精鉱(株)

電気機器(2010年12月)
絶縁油(2010年12月)

エコシステム山陽(株)

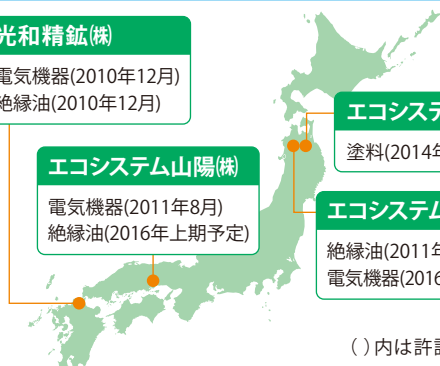
電気機器(2011年8月)
絶縁油(2016年上期予定)

エコシステム小坂(株)

塗料(2014年12月)

エコシステム秋田(株)

絶縁油(2011年11月)
電気機器(2016年上期予定)



()内は許認可取得時期

● 新たな土壌浄化法の開発

近年、大型インフラ建設が活発化しており、建設残土の大量発生が見込まれています。こうした土壌は自然状態で微量の重金属を含んでいることがあり、その適正処理が求められています。

このような状況のなか、DOWAはDME(乾式磁力選別処理: Dry Magnetic Extraction method)という新たな浄化法を開発しました。土壌に鉄粉を混合することで、鉄粉に重金属を吸着させ、重金属を吸着した鉄粉ときれいな土である浄化土とを磁力によって選別する浄化法です。

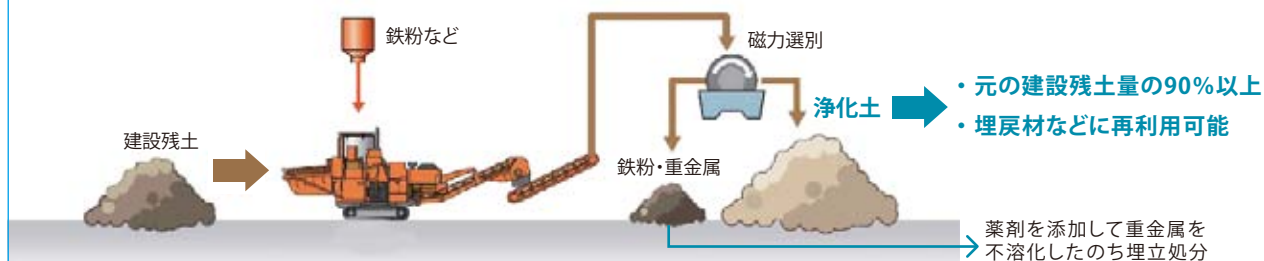
DMEによって、建設残土をその発生場所において、環境への負荷を少なく、低コストで浄化することが可能になりました。

2015年4月には、DMEを採用した設備をエコシステム花岡(株)に立ち上げ、操業を開始しました。今後は、積み重ねた実績をもとに、発生場所でのDME浄化を推進し、建設残土の適正処理に積極的に取り組んでいきます。

エコシステム花岡(株)のDME設備



DMEの浄化フロー・主なメリット



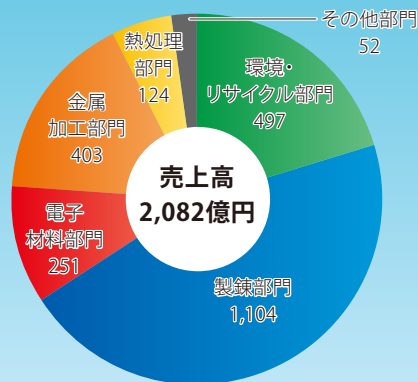
- 発生場所での浄化が可能 — 水や熱を使わないため設備がコンパクト、限られたスペースでも浄化設備が設置可能
- 環境負荷が少ない — 排水が発生せず、設備もコンパクトなため省エネルギー
- 低コストで土壌を浄化 — 発生場所において浄化することにより、土壌の運搬コストを大幅に削減
浄化土は再利用が可能のため、埋戻材などのコストも不要

従来の浄化法

建設残土の発生場所において大規模なプラントを設置、水や熱を用いて重金属を分離・分解する、あるいは遠隔の処分場まで運搬し埋め立てるなどがあります。

部門別の営業状況

部門別売上高構成 (2015年度 中間期)



※各部門の売上高には、連結調整による消去分350億円を含んでおります。

凡例 — 通期売上高 — 中間期売上高 — 通期営業利益 — 中間期営業利益

※'15年度の通期は見込です

環境・リサイクル部門

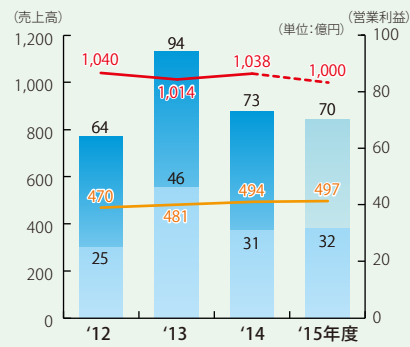
廃棄物処理は、国内の産業廃棄物発生量が横這いのなか、集荷ネットワークの強化を進め堅調に受注を拡大しました。土壌浄化は、新たな浄化法を開発するなど、受注の拡大を図りました。リサイクルは、電子部品スクラップの国内外での集荷拡大に努めたものの、国内の廃家電の減少や貴金属価格下落による影響を受けました。海外事業では、インドネシアやタイなど東南アジアにおける廃棄物処理事業の拡大に努めました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期並みの497億円、営業利益は同4%増の32億円となりました。



エコシステム千葉(株)の廃棄物処理施設

部門別連結売上高・営業利益の推移



製錬部門

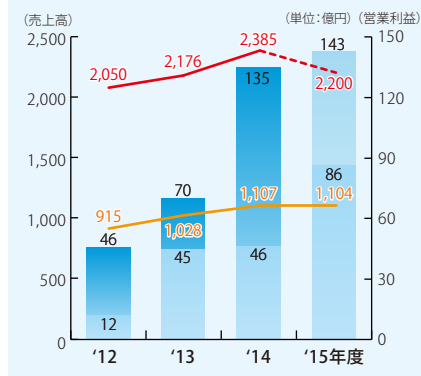
金属価格は、銅や亜鉛などのベースメタルおよび金や銀などの貴金属ともに、需要の減退懸念やドル高を背景にした下落傾向が続きました。一方、為替相場は、前年同期より円安水準の概ね1ドル120円台で推移しました。このような状況のなか、各製錬所の稼働は引き続き順調に推移し、アンチモンなどの副産金属や自動車排ガス浄化触媒から回収されるプラチナなどの白金族類を含め、生産量を確保しました。コスト面では、電力原単位や物品費の削減に努めるとともに、原油価格下落による電力価格引き下げの影響も受けました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期並みの1,104億円、営業利益は同85%増の86億円となりました。



アンチモンのインゴット

部門別連結売上高・営業利益の推移



電子材料部門

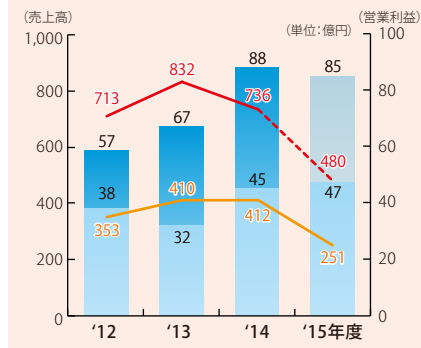
半導体材料製品は、パソコン向けの需要が低調な一方、スマートフォン向けの堅調な需要を取り込み、引き続き販売を伸ばしました。導電材料製品は新エネルギー向け銀粉の拡販に努め、機能材料製品はデータテープ向け次世代記録材料の拡販を進めました。また、市場ニーズに応える新規製品開発に引き続き取り組みました。

これらの結果、当部門の売上高は、銀粉において原料代を含まない受託加工の取引へ一部変更された影響により、前年同期比39%減の251億円となりましたが、売上原価に含まれる原料代も同様に減少し、営業利益は同5%増の47億円となりました。



銀粉

部門別連結売上高・営業利益の推移



部門別の営業状況

金属加工部門

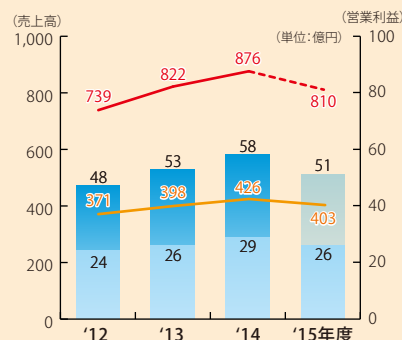
端子やコネクタに使われる伸銅品は、自動車向けやスマートフォン関連向け用途を中心に拡販を図りましたが、国内やアジアでの自動車生産の調整などの影響を受けました。一方、めっき品は、自動車向け貴金属めっきなどの拡販を図り、堅調に推移しました。回路基板は、海外を中心に産業機械や鉄道向けの販売に注力しましたが、中国の設備投資が減退した影響を受けました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比5%減の403億円、営業利益は同10%減の26億円となりました。



貴金属めっき品

部門別連結売上高・営業利益の推移



熱処理部門

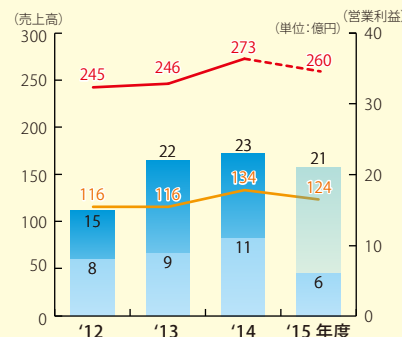
熱処理加工は、海外の自動車市場の成長に合わせて海外拠点の設備増強を進め、インドやインドネシア、米国において受注拡大を図りました。熱処理炉は、国内の製造拠点集約による生産性向上を進めるとともに、海外向けの設備拡販やメンテナンス受注の拡大に努めましたが、国内やアジアでの自動車生産の調整などの影響により受注量が減少しました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比7%減の124億円、営業利益は同48%減の6億円となりました。



国内の熱処理炉製造工場

部門別連結売上高・営業利益の推移



地図で見るDOWAグループ

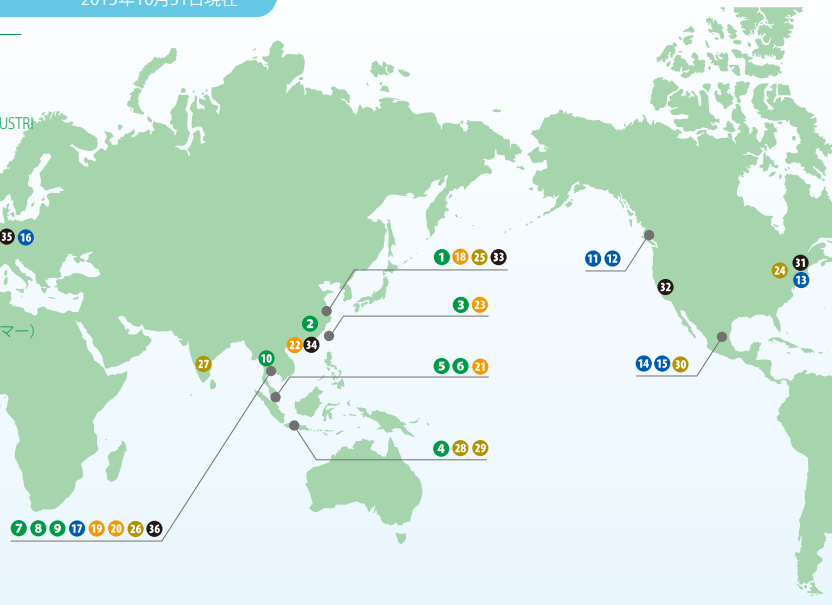
2015年10月31日現在

DOWAエコシステム(株)

- 1 蘇州同和資源综合利用有限公司
- 2 江西同和資源综合利用有限公司
- 3 台湾事務所
- 4 PT. PRASADHA PAMUNAH LIMBAH INDUSTRI (インドネシア)
- 5 TECHNOCHEM ENVIRONMENTAL COMPLEX PTE. LTD. (シンガポール)
- 6 DOWA ECO-SYSTEM SINGAPORE PTE.LTD. (シンガポール)
- 7 WASTE MANAGEMENT SIAM LTD. (タイ)
- 8 BANGPOO ENVIRONMENTAL COMPLEX LTD. (タイ)
- 9 EASTERN SEABOARD ENVIRONMENTAL COMPLEX CO., LTD. (タイ)
- 10 GOLDEN DOWA ECO-SYSTEM MYANMAR COMPANY LIMITED. (ミャンマー)

DOWAメタルマイン(株)

- 11 バンクーバー事務所
- 12 Cariboo Copper Corporation (カナダ)
- 13 NIPPON PGM AMERICA, INC. (アメリカ合衆国)
- 14 メキシコ事務所
- 15 MINERA TIZAPA, S.A. DE C.V. (メキシコ)
- 16 Nippon PGM Europe s.r.o (チェコ)
- 17 DOWA METALS & MINING (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)



- ## DOWAメタルテック(株)
- 18 同和金属材料(上海)有限公司
 - 19 DOWA METALTECH (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)
 - 20 Dowa Precision (Thailand) Co.,Ltd. (タイ)
 - 21 シンガポール支店
 - 22 深圳営業所
 - 23 同和利精密部品股份有限公司(台湾)

- ## DOWAサーモテック(株)
- 24 DOWA THT AMERICA, INC. (アメリカ合衆国)
 - 25 昆山同和熱処理工業炉有限公司
 - 26 DOWA Thermotech (Thailand) Co.,Ltd. (タイ)
 - 27 HIGHTEMP FURNACES LTD. (インド)
 - 28 PT.DOWA THERMOTECH INDONESIA (インドネシア)
 - 29 PT.DOWA THERMOTECH FURNACES (インドネシア)
 - 30 DOWA THERMOTECH MEXICO S.A. de C.V. (メキシコ)

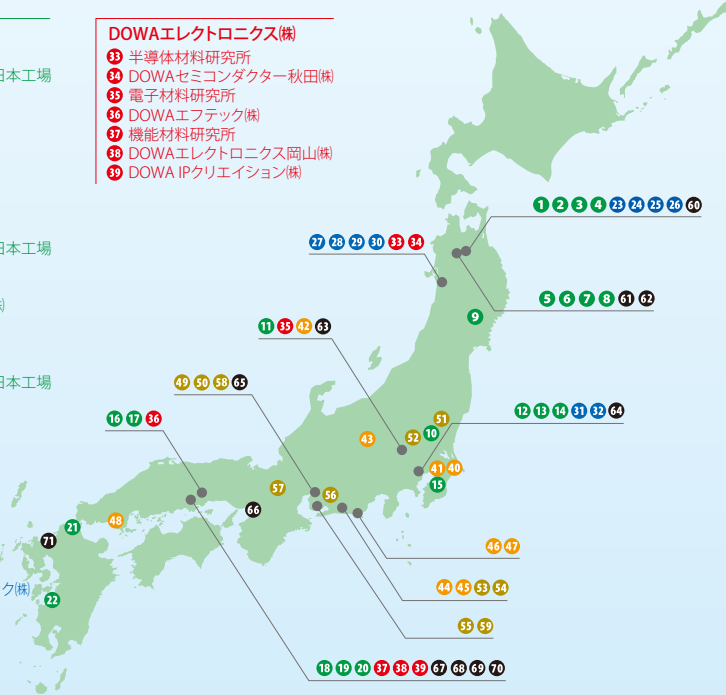
- ## 本社、その他
- 31 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION (アメリカ合衆国)
 - 32 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION サノノゼ事務所(アメリカ合衆国)
 - 33 同和企業管理(上海)有限公司
 - 34 同和企業管理(上海)有限公司 深圳分公司
 - 35 DOWA HD Europe GmbH (ドイツ)
 - 36 DOWA HOLDINGS (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)

DOWAエコシステム(株)

- 1 グリーンフィル小坂(株)
- 2 エコシステムリサイクリング(株) 北日本工場
- 3 エコシステム小坂(株)
- 4 オートリサイクル秋田(株)
- 5 環境技術研究所
- 6 エコシステム秋田(株)
- 7 エコシステム花岡(株)
- 8 ㈱エコリサイクル
- 9 DOWA通運(株)
- 10 メルテック(株)
- 11 エコシステムリサイクリング(株) 東日本工場
- 12 エコシステムジャパン(株)
- 13 ジオテクノス(株)
- 14 イー・アンド・イー ソリューションズ(株)
- 15 エコシステム千葉(株)
- 16 エコシステム山陽(株)
- 17 岡山鉱油(株)
- 18 エコシステムリサイクリング(株) 西日本工場
- 19 エコシステム岡山(株)
- 20 バイオディーゼル岡山(株)
- 21 光和精鉱(株)
- 22 アクトビリーサイクリング(株)

DOWAエレクトロニクス(株)

- 33 半導体材料研究所
- 34 DOWAセミコンダクター秋田(株)
- 35 電子材料研究所
- 36 DOWAエフテック(株)
- 37 機能材料研究所
- 38 DOWAエレクトロニクス岡山(株)
- 39 DOWA IPクリエイション(株)



DOWAメタルテック(株)

- 40 新日本プラス(株)
- 41 豊栄商事(株)
- 42 DOWAハイテック(株)
- 43 DOWAパワーデバイス(株)
- 44 技術センター
- 45 DOWAメタル(株)
- 46 DOWAメタニクス(株)
- 47 DOWAオーリンメタル(株)
- 48 TDパワーマテリアル(株)

DOWAサーモテック(株)

- 49 環境技術開発センター
- 50 テクニカル・ソリューション&リサーチセンター
- 51 DOWAサーモエンジニアリング(株) 真岡工場
- 52 DOWAサーモエンジニアリング(株) 太田工場
- 53 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松工場
- 54 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松北工場
- 55 DOWAサーモエンジニアリング(株) 中京半田工場
- 56 DOWAサーモエンジニアリング(株) 豊田工場
- 57 DOWAサーモエンジニアリング(株) 滋賀工場
- 58 ㈱セム
- 59 東熱興産

DOWAメタルマイン(株)

- 23 製錬技術研究所
- 24 小坂製錬(株)
- 25 ㈱日本ピージーエム
- 26 秋田リサイクル・アンド・ファインパック(株)
- 27 秋田製錬(株)
- 28 秋田ジンクリソリューションズ(株)
- 29 秋田レアメタル(株)
- 30 秋田ジンクリサイクリング(株)
- 31 ㈱アッシュ
- 32 ジンクエクセル(株)

本社、その他

- 60 DOWAテクノリサーチ(株)
- 61 卯根倉鉱業(株)
- 62 秋田工管(株)
- 63 DOWAテクノロジー(株) 関東テクノセンター
- 64 本社
- 65 DOWAグループ名古屋支店
- 66 DOWAグループ大阪支店
- 67 DOWAテクノロジー(株) 西部テクノセンター
- 68 DOWAテクノエンジニア(株)
- 69 陽和工管(株)
- 70 同和興産
- 71 DOWAグループ九州支店

連結財務情報

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	2014年度 2015.3.31	2015年度 中間期 2015.9.30	比較増減
資産の部			
流動資産	180,215	187,205	6,990
現金及び預金	8,517	8,805	288
受取手形及び売掛金	73,126	66,578	△6,548
棚卸資産	81,597	90,257	8,659
その他流動資産	16,973	21,564	4,591
固定資産	198,978	200,377	1,398
有形固定資産	107,675	110,349	2,673
無形固定資産	10,990	10,638	△351
投資その他の資産	80,312	79,389	△923
資産合計	379,193	387,583	8,389

流動資産のポイント

原材料および貯蔵品が71億円増加したことなどにより、前連結会計年度末比69億円の増加となりました。

固定資産のポイント

設備投資により有形固定資産が26億円増加したことなどにより、前連結会計年度末比13億円の増加となりました。

総資産のポイント

以上の結果、前連結会計年度末比83億円の資産増加となりました。

(単位:百万円)

科目	2014年度 2015.3.31	2015年度 中間期 2015.9.30	比較増減
負債の部			
流動負債	118,817	121,018	2,200
支払手形及び買掛金	31,041	27,932	△3,109
短期借入金	30,459	42,142	11,682
コマーシャル・ペーパー	18,000	25,000	7,000
その他流動負債	39,316	25,943	△13,372
固定負債	64,725	64,600	△124
社債	10,000	10,000	—
長期借入金	28,208	27,381	△827
その他固定負債	26,517	27,219	702
負債合計	183,543	185,619	2,075
純資産の部			
株主資本	165,731	172,446	6,715
資本金	36,437	36,437	—
資本剰余金	26,362	26,426	64
利益剰余金	108,630	115,282	6,652
自己株式	△5,699	△5,700	△1
その他の包括利益累計額	21,390	20,707	△683
非支配株主持分	8,528	8,810	281
純資産合計	195,649	201,963	6,313
負債及び純資産合計	379,193	387,583	8,389

負債のポイント

未払法人税等が56億円、未払消費税等が39億円、支払手形および買掛金が31億円減少した一方、有利子負債が178億円増加したことなどにより、前連結会計年度末比20億円の増加となりました。

純資産のポイント

親会社株主に帰属する四半期純利益を120億円計上し、配当金の支払いなどを行った結果、株主資本が67億円増加しました。この結果、自己資本比率は49.8%となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	2014年度 中間期 2014.4.1~ 2014.9.30	2015年度 中間期 2015.4.1~ 2015.9.30	比較増減
売上高	223,640	208,272	△15,368
売上原価	190,844	171,021	△19,823
売上総利益	32,795	37,251	4,455
販売費及び一般管理費	15,983	17,000	1,016
営業利益	16,812	20,251	3,439
営業外収益	3,050	1,923	△1,127
営業外費用	1,370	1,567	197
経常利益	18,492	20,607	2,114
特別利益	125	189	63
特別損失	429	2,339	1,909
税金等調整前四半期純利益	18,188	18,457	268
法人税等	5,999	6,217	218
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失	△10	178	189
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,199	12,061	△138

損益計算書のポイント

市場・ユーザーの状況や変化に対応し、生産性向上・受注拡大に向けた施策を実行した結果、売上高は前年同期比153億円減の2,082億円、営業利益は同34億円増の202億円、経常利益は同21億円増の206億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は探鉱投資に関連する有価証券評価損を計上した結果、同1億円減の120億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	2014年度 中間期 2014.4.1~ 2014.9.30	2015年度 中間期 2015.4.1~ 2015.9.30	比較増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,004	△13	△5,017
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,078	△11,670	△3,591
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,276	12,096	7,820
現金及び現金同等物に係る換算差額	△53	△114	△60
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,148	298	△850
現金及び現金同等物の期首残高	5,823	8,044	2,221
現金及び現金同等物の期末残高	7,422	8,342	920

営業キャッシュ・フローのポイント

税金等調整前四半期純利益184億円を計上した一方、棚卸資産の増加による支出や法人税等の支払いなどがあり、13百万円の支出となりました。

投資キャッシュ・フローのポイント

主に有形固定資産の取得による支出89億円などにより、116億円の支出となりました。

財務キャッシュ・フローのポイント

有利子負債の借入175億円と配当金の支払い55億円などを行った結果、120億円の収入となりました。

役員



代表取締役社長

山田 政雄



代表取締役

杉山 文利



取締役

中塩 弘



取締役

甲斐 博之



取締役

松下 克治



社外取締役

細田 衛士



社外取締役

小泉 淑子



監査役(常勤)

岩野 和



社外監査役(常勤)

岩淵 順一



社外監査役

武田 仁



社外監査役

中曽根 一夫

執行役員



執行役員
DOWAエコシステム(株)
代表取締役社長

佐々木 憲一



執行役員
DOWAメタルマイン(株)
代表取締役社長

関口 明



執行役員
DOWAエレクトロニクス(株)
代表取締役社長

大塚 晃



執行役員
DOWAメタルテック(株)
代表取締役社長

西澤 春雄



執行役員
DOWAカーモテック(株)
代表取締役社長

住田 敏郎



執行役員
DOWAテクノロジー(株)
代表取締役社長

山田 潔

会社概要・株式の状況 (2015年9月30日現在)

会社概要

創業	1884年9月18日	主な事業内容
設立	1937年3月11日	環境・リサイクル事業、
資本金	364億37百万円	製錬事業、電子材料事業、
DOWAグループの社員数	約6,100人	金属加工事業、 熱処理事業

株式の状況

会社が発行する株式の総数	1,000,000,000株
発行済み株式の総数	309,946,031株
株主数	10,666名

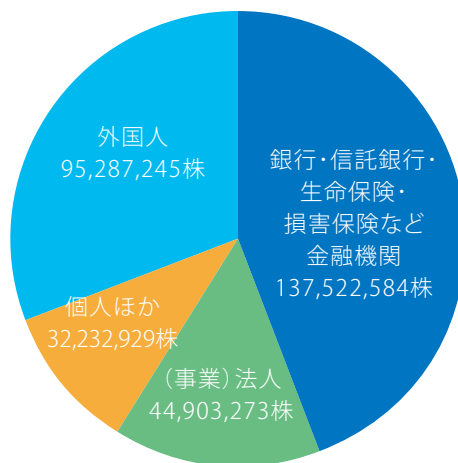
大株主

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9.09%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6.92%
藤田観光株式会社	4.79%
JFEスチール株式会社	3.74%
CMBL S.A. RE MUTUAL FUNDS	3.33%
全国共済農業協同組合連合会	3.06%
株式会社みずほ銀行	2.46%
株式会社りそな銀行	2.43%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2.08%
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	1.82%

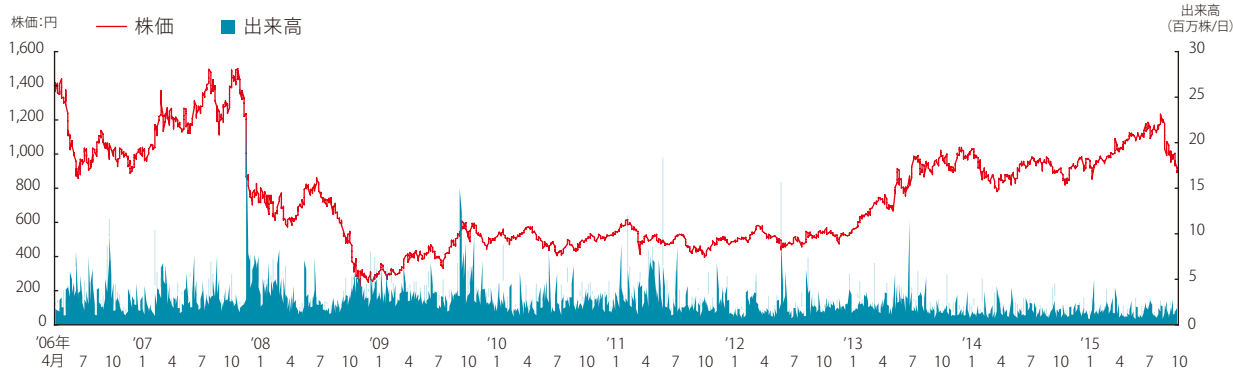
主要子会社

DOWAエコシステム(株)	環境・リサイクル事業会社
DOWAメタルマイン(株)	製錬事業会社
DOWAエレクトロニクス(株)	電子材料事業会社
DOWAメタルテック(株)	金属加工事業会社
DOWAサーモテック(株)	熱処理事業会社

所有者別株式分布状況



株価および出来高の推移



株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	6月
基 準 日	3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告した日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
法定公告掲載新聞	日本経済新聞(東京)
株 主 名 簿 管 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
(郵 便 物 送 付 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先)	電話番号 0120-782-031(フリーダイヤル)
(ホーム ページ アドレス)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

DOWAホールディングス株式会社

〒101-0021

東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX22階

TEL.03-6847-1100

ホームページアドレス <http://www.dowa.co.jp>

表紙写真:アクトビーリサイクリング(株) 家電リサイクル工場

